

朝食時間変更による 職場環境改善提案

医療法人慈心会 老健施設 寿恵苑

提案内容：朝食時間を 7:00 → 7:30 に変更

対象：厨房・介護・看護（全職種横断）

日程：試行→評価→本導入の段階導入を想定

☑ 処遇改善IIの職場環境改善達成

☑ 採用力向上

☑ 業務負担軽減

☑ ケア品質向上

提案の概要

変更点と狙い

➡ 変更点

朝食提供: 7:00 → 7:30

厨房 出勤: 5:30 → 6:00

介護 出勤: 6:30 → 7:00 (早出)

看護 出勤: 7:00 → 7:30

◎ 狙い (メリットを最大化)

求人が集まりやすくなる: 早朝負担の軽減を求人票で強く訴求

職員の負担軽減と休憩確保: ヒヤリ・ミス低減に寄与

地域標準との整合: 鹿児島県・沖永良部の他施設も7:30を採用

❶ 前提条件

R7年1月比で介護職員が +4名 : 朝帯の再配置余地あり

処遇改善IIの 必須項目 である職場環境改善に該当

処遇改善IIとの 関連

必須項目の実効策

■ 位置づけ

処遇改善加算IIの「職場環境等要件」に合致：

- 働きやすい労働環境整備
- 健康管理
- 休憩取得促進
- 業務改善の実施

✓ 実効性

全職種で一律に早朝負担を緩和：公平性と透明性を確保

睡眠時間の確保：健康維持・欠勤/体調不良の予防に効果

休憩の計画取得率向上：定着率向上に資する

慌ただしさの軽減：誤薬・転倒リスク・ヒヤリハット減少

■ 制度への適合性

処遇改善加算IIは職場環境改善の取り組みが必須条件

本提案は具体的・測定可能な改善施策として監査対応も万全

朝食時間変更は最小の投資で最大の職場環境改善効果が期待できる

メリット①

求人効率の向上

採用市場での優位性

県内・島内の標準に適合: 多くの施設が朝食7:30を採用 → 求職者の期待に合致

求人広告の訴求ポイント: 「早朝シフトの過度な負担なし」を求人票のトップに強調表示

ワークライフバランス: 朝の準備時間に余裕 → 育児・通勤の負担軽減をアピール

◎ 想定効果（目安）

応募数の増加: 求人当たりの応募数 +20~30%、紹介会社経由の打診増

応募層の拡大: 子育て世代／夜勤専従／ダブルワーク層の応募層口拡大

定着率向上: 入職後の早期離職抑制、内定辞退率の低下

+25%

応募数向上

+15%

子育て世代応募

-10%

内定辞退率減少

●+ 求人効率を最大化する方法

求人票改訂: 「朝食7:30」の特徴と朝の時間帯の余裕を前面に

既存職員の口コミ活用: 「働きやすくなった」実感を採用活動に活用

SNS発信: 職場環境改善の取り組みとして対外的にアピール

メリット②

介護の業務負担軽減

具体的な軽減項目



起床～整容に余裕

一斉対応の時間的余裕が生まれ、**転倒リスク**と**駆け足対応**が減少します



食前内服と嚥下体位の準備時間確保

丁寧な対応が可能になり、**誤嚥・ムセの予防**につながります



配膳・食事介助の分散化

食事介助開始の**立ち上がりを分散**できナースコールや事故対応の余力が生まれます



夜勤申し送りと朝食準備の重複緩和

情報共有と食事準備の**ダブルタスク**が**軽減**され、確実な引継ぎが実現します



早朝のトイレ誘導・失禁対応

慌てずに誘導・対応が可能となり、**皮膚トラブル**を抑制できます



休憩の計画取得が現実的に

時間的余裕が生まれ、**疲労の蓄積抑制**・メンタルケアにつながります

朝のゆとりは→ケアの質向上→利用者様の満足度向上→職員の働きがい向上

メリット③

厨房・看護の品質と負担軽減

🍴 厨房

出勤5:30→6:00で睡眠時間確保: 離職抑制と段取りの安定

仕込みの精度向上: 朝食の提供品質の均一化

朝食準備に 余裕 が生まれ、適温での提供率向上

⌚ 看護

出勤7:00→7:30で早朝ラウンドと内服準備の質向上

誤薬/ヒヤリハットの低減期待 (特に血圧薬などの朝食前内服)

利用者の状態観察に 集中できる時間 の確保

👥 全体

朝帯のコミュニケーション時間が増え連携が円滑に

引継ぎ情報の質向上: 急ぎ・焦りの中での情報伝達を回避

職種間の 協力体制 が強化され、チームワーク向上

メリット④

業界標準への適合

🌐 外部整合 - 地域標準との一致

鹿児島県内の介護施設: 朝食7:30が主流・標準的な提供時間

沖永良部の他施設: 7:30を採用→地域内で統一された環境

利用者・家族の受け入れやすさ: 地域標準に合わせることで違和感なく説明可能



⌚ 内部効果 - 業務の標準化

新人教育の効率化: 標準化されたタイムスケジュールで教育がスムーズに

多施設経験者の適応: 他施設と同じ時間帯のため経験を活かしやすく

対外的な説明が容易: 採用面接・監査対応・家族面談で「地域標準に準拠」と説明できる

利用者のリズム: 地域内で転所された方も生活リズムを崩さない

現行と変更後のスケジュール比較

1日の流れを時間軸で見る



● **工夫ポイント:** 入浴介助の並列化と手すり消毒のゾーン分割により、全体の遅れを最小限に抑制。介護人員が増員されている利点を活かし、朝食時間を30分遅らせてても昼食への影響を出さない運用が可能です。

● **メリット:** 朝の業務に余裕が生まれ、ケアの質が向上します

● **調整:** 4週間の試行期間で微調整を行い、最適化します

※入浴は一日16~18人が対象

懸念事項と対策

業務影響を最小化

▲ 懸念

通所入浴の遅れ: 本館入浴の後に通所入浴を行うため、時間への影響

早出休憩の確保困難: 11:30からの休憩時間が確保できない可能性

消毒・洗濯確認の圧迫: 午前中の時間が限られ、消毒や名前確認が困難に

● 対策

通所: 送迎時刻を5~10分調整し本館浴と干渉回避

早出休憩: 分割休憩と交代要員の時限配置（朝帯0.5名相当）

手すり消毒: ゾーニング で一部を昼食後へシフト

洗濯物の名前確認: 午前の隙間作業→午後アイドルタイムへ移管

人員配置: R7年1月比+4名 を朝帯に再配置しピーク負荷を平準化

検証体制: 4週間の試行でKPIモニタリング→必要に応じ再調整

実施による期待効果

KPI案

△ 定量目標（目安）

👤 応募数: **+20~30%**

⌚ 早出残業時間: **▲15%**

☕ 休憩取得率: **+20pt**

⚠ 早朝帯ヒヤリハット: **▲10%**

👤 離職率: **▲5pt (年次)**

⚠ 体調不良・欠勤: **▲10%**

♥ 定性効果

慌てない介助でケア品質向上: 時間的余裕が生まれることで、丁寧な介助が可能に

職員満足度の向上: 早朝帯の負担軽減によるワークライフバランスの改善

家族説明の納得感向上: 地域標準との整合により、利用者・家族への説明がしやすく

☰ 検証

試行期間: **4週間**

週次でのデータ収集とフィードバック会議の実施

評価会を経て本導入可否を判断

導入後も **3か月ごと** に効果測定を継続

まとめと次のステップ

提案実現へのロードマップ

❶ まとめ

朝食7:30は高メリット: 採用力・負担軽減・安全性・地域整合の観点で優位性が明確

職場環境の具体的改善: 職員全体の負担軽減と休憩取得率の向上

処遇改善II要件に合致: 職場環境等要件の実効策として適切

長期的な効果: 離職抑制・求人効率向上・ケア品質の維持向上に貢献

❷ 次のステップ

- 1 関係部署で合意形成:** 厨房・介護・看護・通所間の調整と意見集約
- 2 試行計画の策定:** 期間・対象ユニット・KPI・当番表の具体化
- 3 利用者・家族への周知:** 理由・安全配慮・影響最小化策を明示
- 4 試行開始と検証:** 週次レビュー→課題抽出→改善反映のサイクル
- 5 本導入判断と標準化:** 運用手順書の改訂と全体展開

💡 朝食時間の変更は、職員の負担軽減と採用強化につながる「小さな変化で大きな改善」です。試行を通じて、より良い職場環境とケアの質の両立を実現しましょう。